

直前難関国公立大国語

直前難関大国語 T

【2 回目】



【問題】

【一】 出典…田辺聖子『ジョゼと虎と魚たち』／オリジナル問題

ポイント

家族間の感情のすれ違いや、人間愛などがテーマとして出題されることの多い小説問題。小説では、登場人物の心情把握が設問の中心となるが、人物の置かれている状況・発言や、情景の描写・比喩表現などを余さず踏まえた上で、傍線で問われる各要素に的確な表現を充てていく必要がある。くれぐれも独善的な読みに陥らぬよう注意してほしい。

文章略解

「ジョゼ」(愛称)は、祖母と二人暮らしである。母親とは幼少の頃別れ、父親もジョゼを施設に預けたまま会いに来なくなってしまう。下半身に障害があつて車椅子での生活を余儀なくされているジョゼは、ある晩何者かに坂道で車椅子ごと突き落され、危機一髪のところを救ってくれた大学生の恒夫と出会う。恒夫より二歳年上だけのジョゼにとって、恒夫はかけがえのない存在となるが、恒夫にとってもジョゼは特別な、いとおしい存在となる。

解答

問1 ジョゼは家と施設しか知らず、また人見知りする性格のため、善意に満ちた小さな人間関係の外側の世界に対して常に警戒心を抱いていたから。〔65字・解答例〕

問2 ジョゼは本当は自分の境遇とは異なる理想の父親像や家庭環境を空想によって創り上げ、自身の精神的な支えにしていたということ。〔60字・解答例〕

問3 ジョゼの高圧的な態度が、障害者に散見される差別闘争意識の表れでないことは理解していたが、自分に対する甘えの裏返しで

あることには当初気が付かなかったという心理。〔79字・解答例〕

問4 大学のキャンパスで目にする若い女性の健康的な女らしさとは全く異質な気品や繊細さを密かに大切にし、慈しみたいという気持ち。〔60字・解答例〕

解説

問1 傍線部の理由を説明する問題。理由説明の問題とは、傍線部の内容にもとづいて、本文中からその理由となるべき妥当な要素をとり出して正しい論理を組み立てることである。

傍線部アの場合、直前に書かれている恒夫の受けとめ方とは対照的である点に、まず注目しよう。恒夫は、ジョゼの乗る車椅子を突き落としたのは酔っぱらいの悪戯か何かであろうと言うのだが、ジョゼはそうではないと確信している。恒夫とは違い「悪意の気配」に敏感になっているから確信しているのである。ヒントは直前の「家と施設で暮らしている」にある。これは恒夫と違って狭い世界で暮らしているという、人間の置かれた環境条件の違いが考えられるということである。少し後に「ジョゼは家と施設しか往復していないので世間を知らない。」(29～30行目)とある。また、「施設へくる介護ボランティアの青年や娘や中年婦人とも、ジョゼはうちとけずに人見知りする」(31行目)とある点もヒントになる。これは、ジョゼの生れつきの性格である。この二点から、ジョゼの生活環境(＝外的条件)と、持って生まれた性格とが結びついて、外部への警戒心の高さとしてあらわれたとまとめることができる。人間の性格形成には、外的要因と内的要因の二つが深く関わるとするのが一般的な説であろう。

問2 傍線部の内容を説明する問題。内容説明とは、単なる言葉の置きかえでなく、傍線部の内容を説明的な文の形式と表現を用いてわかりやすく解説したものでなければならない。

傍線部イには、ジョゼが自身の生まれや父親との思い出について現実とかけ離れた願望や夢を現実として語っている様子が記されている。「嘘というより」とあるように「厳然とジョゼには存在している」のである。これは「空想」でもよぶのが妥当であろう。「妄想」と表現したのではジョゼの立場から離れてしまい、嘘ということになってしまう。また、直前に書いてあるように、恒夫がジョゼの現実を指摘したときジョゼが「呼吸困難をおこすぐらい怒りたける」のはなぜなのか、ジョゼにとってどんな意味

があるのかを考えてみなければならない。ジョゼが恒夫に語る過去の思い出は、願望や夢によって美しく形成され飾られて、ジョゼにとってなくてはならない大切な宝なのである。したがってそれを傷つけられることは現在の自分自身にとって絶対に許せないことなのである。これを何というか。「精神的な支え」あるいは「アイデンティティーの基盤」とでもいうほかはないだろう。

問3 傍線部の心理を説明する問題。心情に関わる説明の問題は、その心情を抱いている人物の立場を分析することが重要である。

傍線部ウの場合「はじめ……(恒夫は)とまどった」とある。恒夫は、直後に書かれている「障害者運動にはタッチしていなかったが、」(63行目)以下からわかるように、ジョゼの高圧的な態度を差別闘争意識の表れではないと考えている。しかし、どういうことなのかはつきりした答えを出せずにいる。

「恒夫だけが外の風を運んでくるようになった。」(69行目)以後は、ジョゼと恒夫の関係がしだいに密になり、ジョゼの高飛車な態度に接する機会が増えて恒夫にもその謎が解けかけている記述がある。「恒夫はジョゼのその『いばり』はジョゼの甘えの裏返しなのじゃないかというカンが働いている。」(75～76行目)しかし、「そういう心理の綾をこまかに分析して表現する習慣も能力も恒夫にない」(77～78行目)というくだりである。そこで、傍線部と対比して考えるならば、恒夫はジョゼに出会った当初、ジョゼの高圧的な態度を「甘えの裏返し」とさえ気づいていなかったことになる。以上の二点をふまえれば恒夫の初期のとまどいを説明したことになるだろう。

問4 心理説明の問題。傍線部エには独特の比喩表現が用いられている。「旧家の蔵から盗み出してきた古い人形を運んでいるような」とは、恒夫の感覚を言い表した絶妙の表現なのである。ユニークである。しかし、特有の表現を一般的な言葉で説明するとどうなるだろうか。「盗み出し」からは「密かに」「こっそりと」といった様子がかがえ、恒夫がジョゼを貴重な宝物のように「大切に」しているのとよみとれるのではないだろうか。また、「古い人形」とは直前の「市松サンのように美しい面輪」とびつたりの比喩で、「大学のキャンパスで見る女の子たち」の「すこやかな雌虎のようにただけしく、セクシユアル」(80行目)と対照的な「繊細さ」「気品」といったものがみえてくるのではないだろうか。以上を総合すれば、恒夫のジョゼに対する気持ちは十分に説明できるといえる。

【配点の目安】	60点	問1	16点	問2	14点	問3	14点	問4	16点
---------	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----

問1

〈ア〉ジョゼは家と施設しか知らず、イまた人見知りする性格のため、ウ善意に満ちた小さな人間関係の外側の世界に対して工常に警戒心を抱いていたから。…16点

※ア5点、イ4点、ウ3点、エ4点

*アは、「ジョゼ」を主語にとらえ、「家と施設だけで生活してきた」という〈生活範囲の狭さ〉を説明していれば可

*イは、「人見知り」という〈ジョゼの性格〉を説明していれば可

*ウは、ジョゼの日常の人間関係を「善意に満ちた（安心できる・気を許せる）人間関係」と押さえ、警戒する対象として「善意に満ちた（安心できる・気を許せる）人間関係以外の世界」をとらえていければ可

*エは、「警戒・用心していた」「怖がっていた」という〈ジョゼの気持ち〉を説明していれば可

問2

〈ア〉ジョゼはイ本当は自分の境遇とは異なる理想の父親像や家庭環境をウ空想によって創り上げ、工自身の精神的な支えにしていたということ。…14点

※ア1点、イ6点、ウ3点、エ4点

*アは、「ジョゼ」を主語にとらえていければ可

*イは、「ジョゼのいうこと」の内容として「父親像や家庭環境」をまず押さえ、それらが「理想」「本当は自分の境遇と異なる」という〈実生活との違い〉を指摘していれば可

*ウは、「空想によって創り上げている」ということを説明していれば可

*エは、「（イを）心のよりどころとしている」という〈ジョゼの内面〉を説明していれば可

問3

〈アジョゼの高圧的な態度が、イ障害者に散見される差別闘争意識の表れでないことは理解していたが、ウ自分に対する甘えの裏返しであることにはエ当初気が付かなかったという心理。〉：14点

※ア3点、イ4点、ウ4点、エ3点

*アは、傍線部のジョゼの態度を「ジョゼの高圧的な態度」と、具体的に説明していれば可

*イは、「障害者に散見される差別闘争意識の表れではない」という〈友人の話と比較した恒夫の見方〉を説明していれば可

*ウは、恒夫の「カン」から、「自分に対する甘えの裏返し」ととらえていることを説明していれば可

*エは、「はじめ…とまどった」に見られる恒夫の心情を「(ウに)当初気が付かなかった」という旨とらえていければ可

問4

〈ア大学のキャンパスで目にする若い女性のイ健康的な女らしさとはウ全く異質なエ気品や繊細さをオ密かに大切にし、慈しみたいという気持ち。〉：16点

※ア2点、イ4点、ウ2点、エ4点、オ4点

*アは、傍線部が大学の若い女性との比較であることをふまえ、「大学のキャンパスで見る女性」を取り上げていければ可

*イは、「大学のキャンパスで見る女性」の〈特徴〉として「健康」「女らしい(セクシャル)」の二点を説明していれば可

*ウは、「(アと)異なる」という〈大学の女性とジョゼとの違い〉を説明していれば可

*エは、大学の若い女性との比較から、〈「市松サンのようなジョゼの様子」〉として「繊細(きやしや・線が細い)」「気品(上品・優雅)」の二点を説明していれば可

*オは、「密かに」「大切にする(愛情を持つ)」という恒夫の〈ジョゼに対する気持ち〉を二点説明していれば可

ポイント

設問はバラエティに富んでいる。書き下し文・現代語訳・説明問題は、入試で問われる三点セットと考えてよい。それぞれ、まず基本文型を、次に「句法」を押さえること。条件反射的な反応はミスを生むことになる。また漢文にも単語問題がある。ある漢字の文中の意味を二字熟語を作って答えさせるパターンは、私立大でも同様の出題があるので、漢語の語彙力を充実させること。

書き下し文

齊王 淳于髡を以て太子に傳たらしめんと欲す。髡辞して曰く、「臣 不肖にして、以て此の大任に当るに足らざるなり。王国の長者を挾びてこれを使ふに若かず」と。齊王曰く、「子辞すること無かれ。寡人、豈に子の太子をして必ず寡人のごとくならしむることを責めんや。寡人固より生まれながらにして之を有するなり。子寡人の為に太子をして堯のごとくならしめんか、其れ舜のごとくならん」と。

凡そ説の行はるるや、不智より智に聴き、非より是に受くるなり。今自ら賢なること堯舜に過ぎたりと以はば、彼且に胡ぞ以て説を開くべけんや。説必ず入らずして、存君を聞かず。

現代語訳

齊王は淳于髡を太子の養育係にしようとした。髡は辞退してこう言った。「私は愚か者であります。この（太子の養育係という）大任に当たることはできません。王はこの齊の国の（他の）立派な人物をお選びになり使われるほうがよろしいかと存じます」と。齊王が言った。「そなたは辞退することはないぞ。私はそなたが（将来）太子を私のように（立派な人物に）なるように導くことを（そなたに）求めようか（求めたりはしない）。私はもともと生まれたときから（立派な人物の証明である）徳を持つておる。そなたは私のために、太子を（あの聖王）堯のようにさせようとしても、（せいぜい堯に次ぐ）舜（の程度）にしかなるまいよ」と。

だいたい（臣下が王に忠言する）説というものは、（王が自分が）不智であるから他の智であるものに耳を傾け、（自分が）非であるから（他の）是なるものを受けるのである。もし自分自身の賢いことが（あの誰も及ばない聖王の）堯舜より優れていると考えるなら

ば、そんな人（「齊王」）はどうして（人の）説を聞くことができようか（いやできない）。（人の）説は必ず（王の耳に）入らないし、（またそのような状態で）長続きした君主（「王」）（がいたなどと）は聞いたことがないのである。

解答

問1 (a) 〓 あたるに (b) 〓 もとより (c) 〓 みづから（みずから） (d) 〓 なんぞ

問2 愚者のこと。〔解答例〕

問3 わうくにのちやうじやをえらびてこれをつかふにしかず（おうくにのちようじやをえらびてこれをつかうにしかず）

問4 「寡黙」「寡作」「寡占」など

問5 先生が我が子を必ず私のように非常に賢明な人物にさせるという責任を先生に負わせることはありません。〔解答例〕

問6 齊王

問7 君主が自分が愚かで間違っていると思わないのならば、臣下の進言を聞くことができず、政治を誤ってしまう点。〔解答例〕
／＼君主が自分を誰よりも賢いと思いがってしまうと、臣下の意見を聞き入れる謙虚さを失い、結局は失政によって滅んでしまう点。〔別解例〕

解説

問1 「当」は再読文字（助動詞）で読む場合「まさニ当」と動詞「あたル」で読む場合がある。この二つの意味は実はさほど違いはないので「接続」から考える。「まさニ当」は意志・当然の助動詞「べし」に接続するのだから、終止形（ラ変型の場合は連体形）に接続。「あたル」

の場合は格助詞「に」に接続。(a)は「(此)大任」だから、「あたる」が正解。(b)は「固」と読む副詞。原義は「本来的に」「固有なものとして」だが、「そもそも」「はじめから」などと訳す。(c)は、前置詞「自」の用法があるが、直下の「以」から接続不可なので捨てる。副詞としては、「自(自分で)」と「自(自然と)」の読み方があるが、ここでは「自分自身」を「堯舜」にまさっていると考えするという文意で取るしかない。従って「みづから(みづから)」。(d)「胡」は疑問詞で「何」と用法が重なり、「胡(どうして)」の意味を持つ。なお設問には現代仮名遣いか歴史的仮名遣いか指定がないのでどちらでも構わないが、混用すると減点される可能性があるので注意。

問2 「肖」は「肖像(画)」などの熟語から「似」ているの意味があると分かる。「不肖」は親に似ていない子供の事。「孝」の国・中国では、親に似ていない子は馬鹿すなわち愚か者なのである。「不肖の息子」などは今でも使うので覚えておくこと。

問3 幹になる句法は、「比較」。「不若」は「不_レ若_レ○」と読む。今回の○は二つあって、「扞国之長者」と「使之」である。慣用的に最後の「使之」から「不若」に返るので、返り点は、「王不_レ若_下扞国之長者而使_之」となる。「○」の「に」は格助詞だが、体言及び連体形(準体言)に接続する。「使」は「使役」の助動詞ではなく、動詞で読む。「使」と読め、ハ行四段活用なので「使」となる。「之」が二つあるが、「国之長者」は「之」、「使_レ之」は「之」と難なく読めるはずだ。残るは「扞」の字。これは動詞として読むしかない。「選扞」という熟語から「扞」と読めるが、下に続くので「扞」と連用形で読む。最後に、仮名遣いは統一することに注意。

問4 「寡」は、「多」の反対語で「少ない」の意味。「寡人」は、王の一人称謙称で「徳の少ない私」の意味。「寡」の字を使った語は意外に多い。〔解答〕以外には、「寡聞」(見聞が狭いこと)などがある。

問5 まず「反語」の「句法」であることを見抜く。「豈……也哉」には含まれた文の中に、「使役」が隠れている。「令」が使役の助動詞。「太子」が被使役者。「如」は比況の助動詞「ごとし」で読む。書き下し文にすると、「豈に子の太子をして必ず寡人のごとくならしむることを責めんや」となる。「子」は、淳于髡のことだが、尊称の二人称であることから、「先生」とした。「子之令太

子必如寡人」は、「先生が私の子（太子）を必ず私のようにさせる」と意味がとれるが、「責」は、「責め苛む^{さいな}」の意ではなく、「責任を負わせる」の意でとる。「反語」の意味を考えると、「責任を負わせない」となる。先程の訳と合わせれば正解となる。

問6 直前の「以賢過於堯舜」は、斉王の台詞「子為寡人令太子如堯乎、其如舜也」に対応する。従って、「彼」は斉王である。

問7 まず傍線部(5)の解釈を済ませよう。「存君」は「存続した君主」。「存亡」の「存」である。「存君」を「不聞」なのだから、「みな君主は滅んだ」のである。ではどんな君主が滅亡したのか。直前の「説必不入」から、「説」が耳に入らなかった君主である。「斉王と淳于髡」の話のまとめがその理由を説明している。最後の二行「凡説之行也……彼且胡可以開説哉」を要約すると、「説が聞き入れられるのは、自らの愚や非を認めてこそ可能である。斉王の様に、賢明であることこの上ない古代の聖王堯や舜よりも自らを賢明であると思つたら、説を聞くことは出来ない」となる。これをほぼそのまま書いたものが解答。ここでは斉王個人の話だが、一般化して、主語を「君主」とした。すると「説」は、「臣下」のと限定できる。「説」は、「直言・進言・諫言・忠言・意見」などと訳せば良いだろう。ここまでを整理すれば基本的には問題ないが、この解答ではやや甘いので、「君主が自らを賢明であると考える」ことがなぜ「臣下の進言を聞き入れることを出来なくする」のか、という観点から一歩踏み込んで解析した解答を「別解例」として載せておいた。合わせて参照してほしい。

【配点の目安】 40点 問1 各2点×4＝8点 問2 3点 問3 6点 問4 4点 問5 8点 問6 3点 問7 8点

問3

〈アわうくにのちやうじやをえらびて（おうくにのちようじやをえらびて） イこれをつかふに（これをつかうに） ウしかず〉…6点

※ア2点、イ2点、ウ2点 歴史的仮名遣い・現代仮名遣いのどちらかに統一していないものは全体の得点からマイナス1点。漢字で記したものは不可

*アは、「而」を順接ととらえ、「王…扶国之長者而」を「わうくにのちやうじやをえらびて（おうくにのちようじやをえらびて）」と書き下していれば可

- *イは、比較形ととらえ、「使之」を「これをつかふに（これをつかうに）」と書き下していれば可
- *ウは、「不若」を「しからず」と書き下していれば可

問5

〈ア先生が我が子をイ必ず私のように非常に賢明な人物にさせるというウ責任を先生に負わせることはありません。〉…8点

※ア2点、イ3点、ウ3点

*アは、「子」＝「淳于髡」（主語）、「太子」＝「斉王の子」（使役の対象）ととらえ、「先生が我が子に（…させる）」「あなたが太子に（…させる）」という人物関係を訳していれば可

*イは、「如寡人」を「私のように」ととらえ、直後の斉王の発言から「賢明（立派）な人物」という旨補足して、「令必如寡人」を「必ず私のように非常に賢明（立派）な人物にさせる」という旨訳していれば可

*ウは、「豈——也哉」を反語、「責」の意を「責任を負わせる（責め）求める」ととらえ、「責任を負わせることはありません」「（責め）求めようか、（責め）求めない」という旨訳していれば可

問7

〈ア君主が自分が愚かで間違っていると思わないのなら、イ臣下の進言を聞くことができず、ウ政治を誤ってしまう点。〉…8点

※ア3点、イ3点、ウ2点

*アは、傍線部の「君」から、「君主」を主語ととらえ、「自分自身を愚かで間違っていると思わない」という〈滅亡した君主の特徴〉を説明していれば可。別解の斉王のように「自分を誰よりも賢いと思っている」といる方向から説明しても可

*イは、「臣下の進言（直言・諫言・忠言・意見）を聞き入れない」という「説」に対する〈滅亡した君主の姿勢〉を説明していれば可。別解のように「臣下の進言を聞き入れる謙虚さが無い」と説明しても可

*ウは、「政治を誤ってしまう」という〈臣下の進言を聞き入れなかった結果〉を説明していれば可。別解のように「失敗して滅んでしまう」と説明しても可



LT
直前難関国公立大国語
直前難関大国語 T
【2 回目】



会員番号	
------	--

氏 名	
-----	--